

# コニカミノルタ株式会社

## 2013年度第1四半期決算説明会

2013年7月30日

常務執行役  
安藤 吉昭



- 本資料の記載情報  
本資料におきましては、四捨五入による億円単位で表示しております。
- 将来見通しに係わる記述についての注意事項  
本資料で記載されている業績予想及び将来予想は、現時点における事業環境に基づき当社が判断した予想であり、今後の事業環境により実際の業績が異なる場合があることをご承知おき下さい。

情報機器事業はカラー機販売が堅調。コストダウン計画も順調に進捗、収益力は回復軌道。全社の増収増益を牽引。為替効果も歩留まり、[計画インライン+ $\alpha$ ]の順調なスタート。

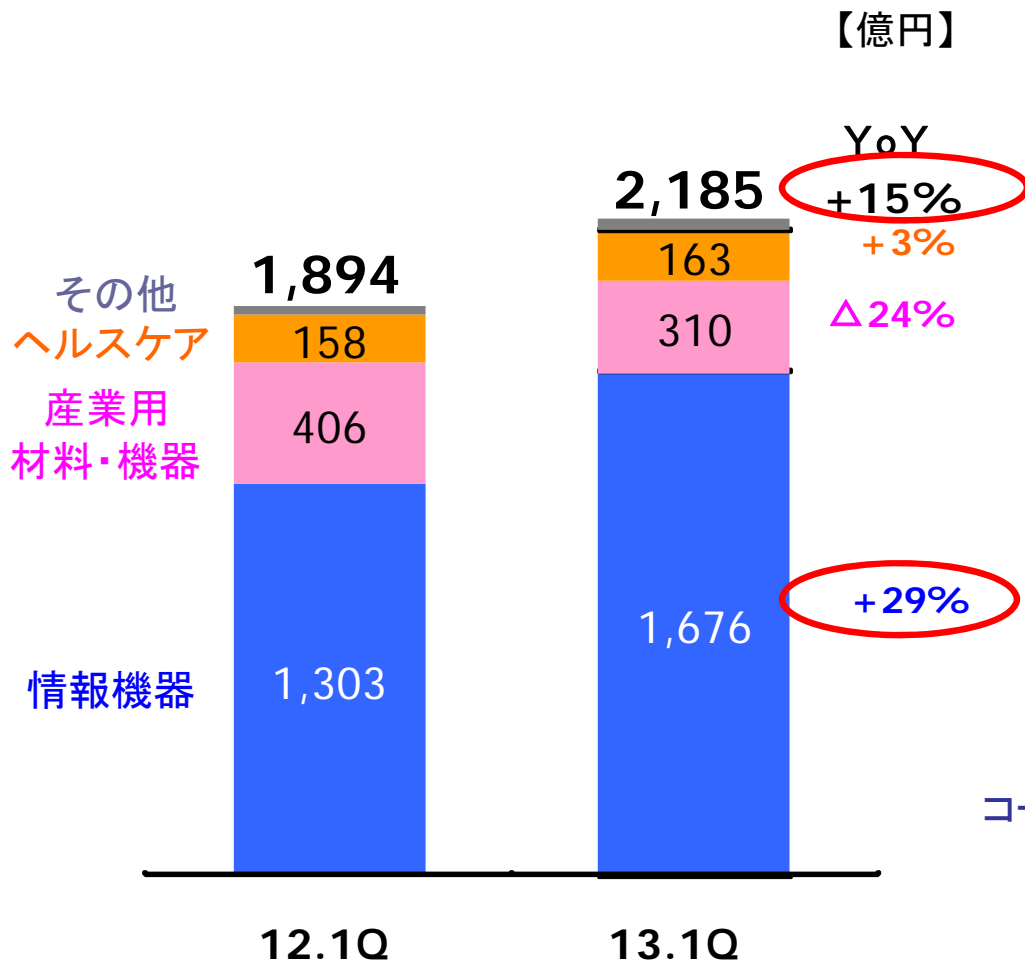
- 売上高： 2,185億円(前年比+15%)  
情報機器事業中心に、販売増、M&A、及び為替効果により増収。
- 営業利益： 78億円(前年比+23%)  
産業用材料・機器事業の減益を情報機器事業及びヘルスケア事業で補い、前年比増益。
- 四半期純利益：98億円(前年の2億円から大幅増)  
経営体制再編に伴う繰延税金資産見直しに係る税効果を織り込む。

# 2013年度1Q決算のポイント(事業別売上高・営業利益増減)

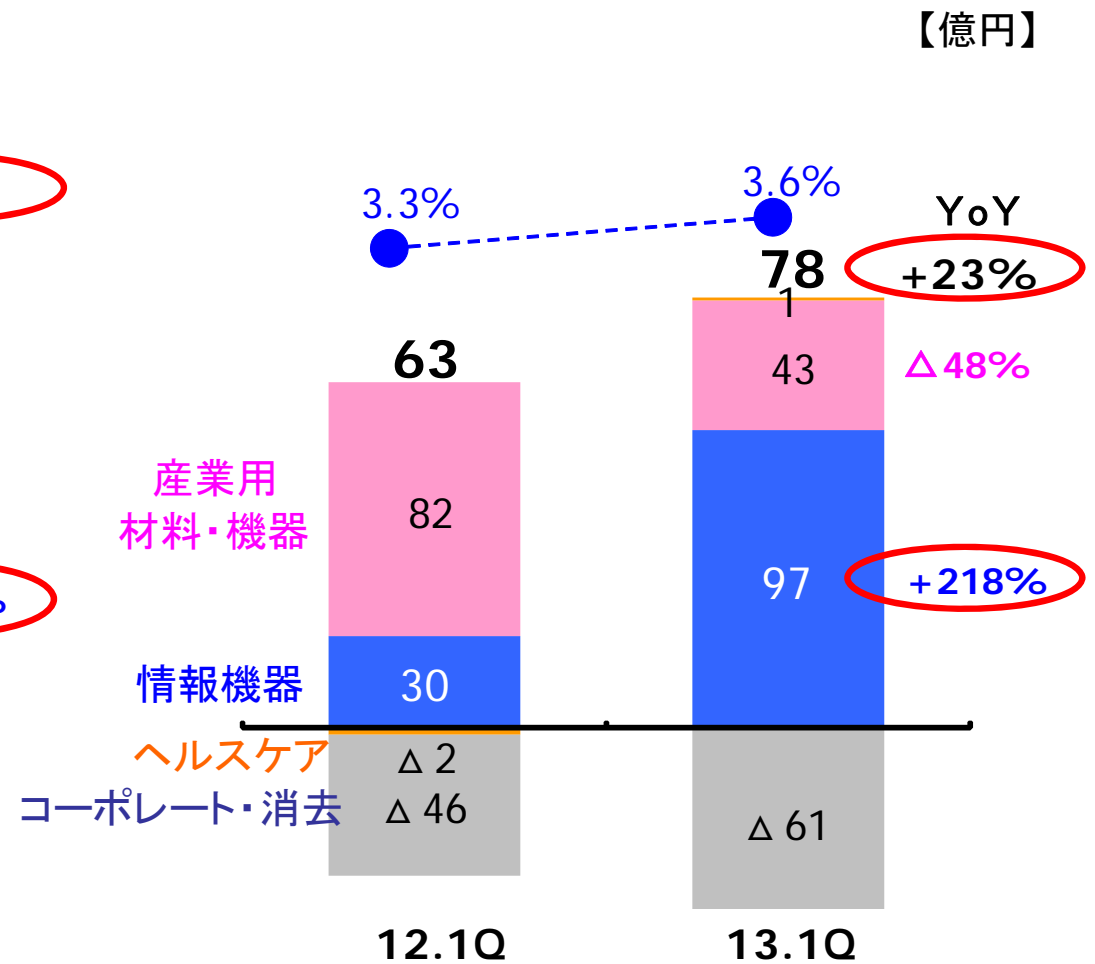


KONICA MINOLTA

## 売上高



## 営業利益



# 2013年度1Q 全社業績要約



KONICA MINOLTA

[億円]

	13年度 1Q	12年度 1Q	YoY
売上高	2,185	1,894	15%
営業利益	78	63	23%
(営業利益率)	3.6%	3.3%	-
のれん代償却額	29	23	24%
のれん代償却前営業利益	107	86	24%
(のれん代償却前営業利益率)	4.9%	4.6%	-
四半期純利益	98	2	大幅増益
(四半期純利益率)	4.5%	0.1%	-
為替レート [円] US\$	98.76	80.20	18.56
Euro	128.95	102.91	26.04

# 2013年度1Q セグメント別売上高・営業利益



KONICA MINOLTA

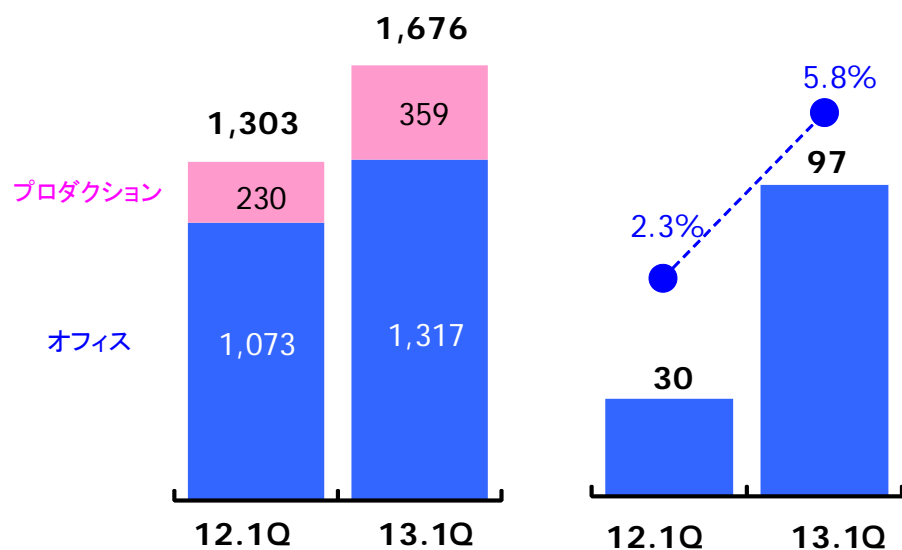
売上高	13年度 1Q	12年度 1Q	[億円] YoY
情報機器	1,676	1,303	29%
産業用材料・機器	310	406	-24%
ヘルスケア	163	158	3%
その他	37	26	-
グループ計	2,185	1,894	15%

営業利益 (右側: 営業利益率)	13年度 1Q		12年度 1Q		YoY
情報機器	97	5.8%	30	2.3%	218%
産業用材料・機器	43	13.8%	82	20.1%	-48%
ヘルスケア	1	0.4%	Δ 2	-1.0%	-
コーポレート・消去	Δ 61	-	Δ 46	-	-
グループ計	78	3.6%	63	3.3%	23%

- **売上高**: 1,676億円 (前年比+29%、為替影響除く+9%)  
主力製品の販売増、M&A効果、円高修正の為替効果により増収。
- **営業利益**: 97億円 (前年比+218%、為替影響除く+95%)  
売上拡大に伴う粗利増、コストダウン計画の順調な進捗により大幅増益。

## 売上高/営業利益 対前年増減

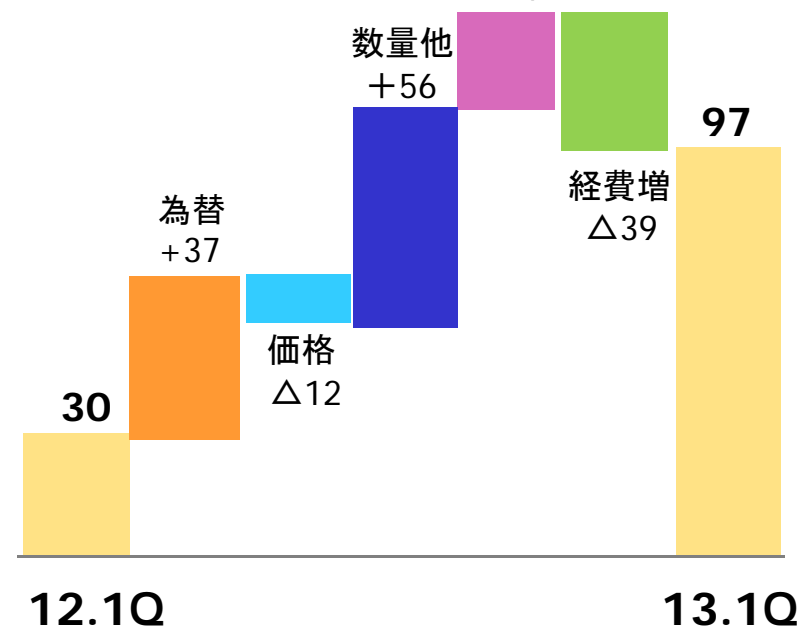
左:売上高 右:営業利益 — 営業利益率 【億円】



Giving Shape to Ideas

## 営業利益 対前年増減分析

コストダウン +24 【億円】



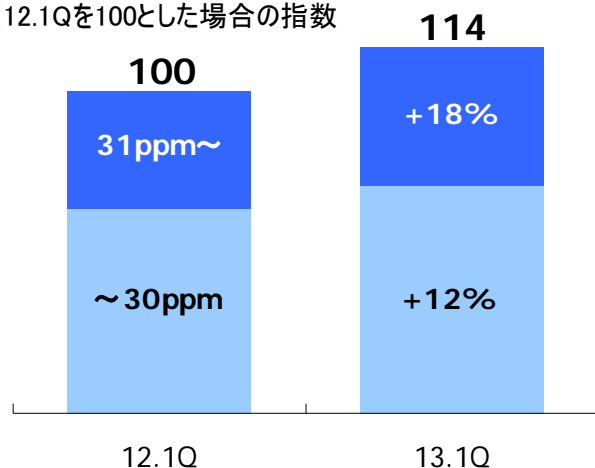
# 情報機器事業：販売状況



## オフィス分野

### A3カラー-MFP販売伸長利率

※12.1Qを100とした場合の指数



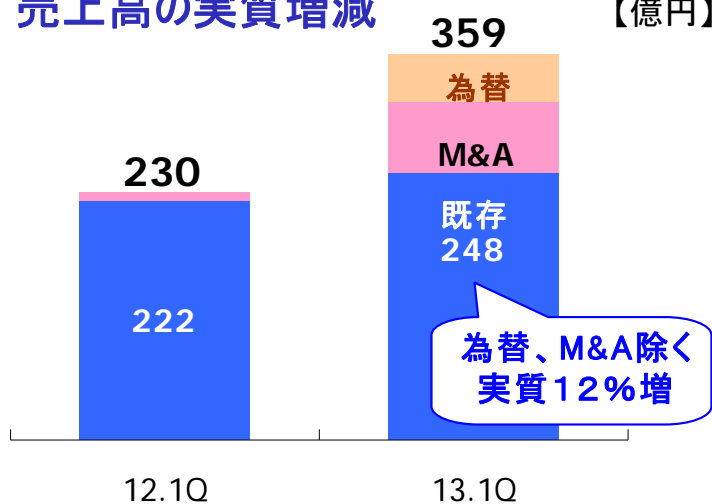
モノクロ機は減少も、カラー機は新製品が牽引し好調。特に中高セグメントカラー機の販売好調により、ノンハード売上も堅調に推移。

地域別売上高増減 (為替影響除く)	日本	米国	欧州	他地域	全体
	△1%	+2%	+9%	+4%	<b>+4%</b>

## プロダクションプリント分野

### 売上高の実質増減

【億円】



機器、ノンハード共に売上が伸長し、印刷市況に回復の兆しあり。M&A効果も増収に寄与。

地域別売上高増減 (為替影響除く)	日本	米国	欧州	他地域	全体
	+40%	+9%	+71%	+34%	<b>+36%</b>



既存のMFP営業とITサービスプロバイダーとのシナジーも寄与し始め、成長領域での事業拡大は欧米市場中心に順調に進捗。業容転換を果たしつつ、MFP販売拡大の実績が着実に積み上がる。

- GMA売上高： 42億円 (前年同期比 +39%)
- OPS売上高： 91億円 (同 +77%)
- IT・サービス・ソリューション売上高： 175億円 (同 +82%)

# 情報機器事業:コストダウンと販管費の進捗状況



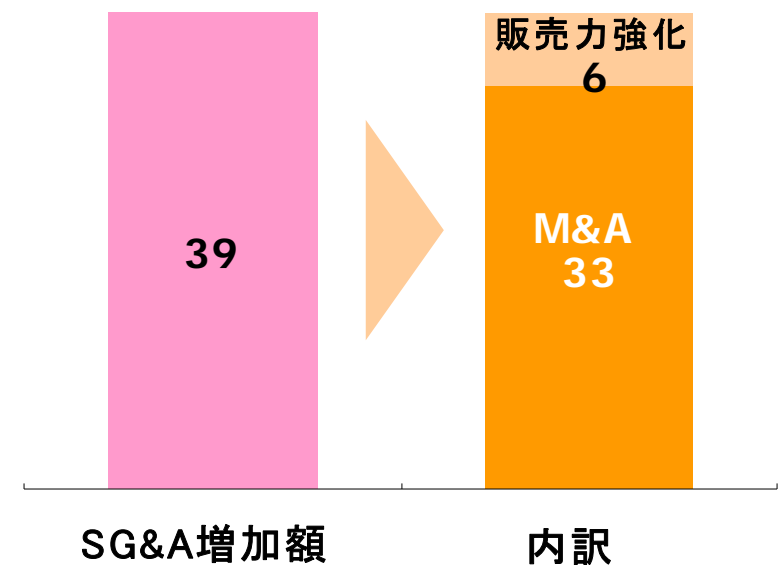
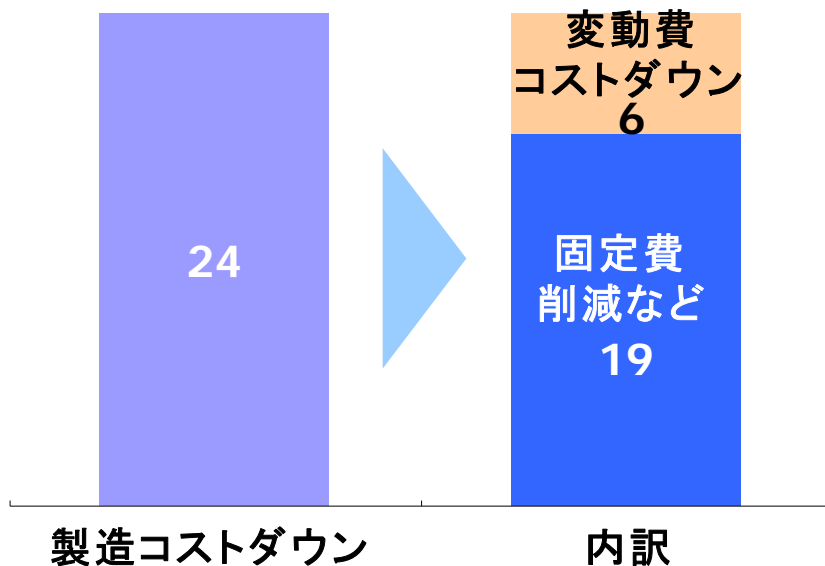
コストダウンは、生産効率改善による人員抑制等で固定費が大幅削減。部品の集中購買、ユニット化の推進による変動費の削減も順調に進捗。販管費は、M&Aや販売強化など計画に沿ってコントロール。

製造コストダウン効果(13.1Q vs 12.1Q、為替影響除く)

販管費増減(13.1Q vs 12.1Q、為替影響除く)

【億円】

【億円】



# 産業用材料・機器事業総括

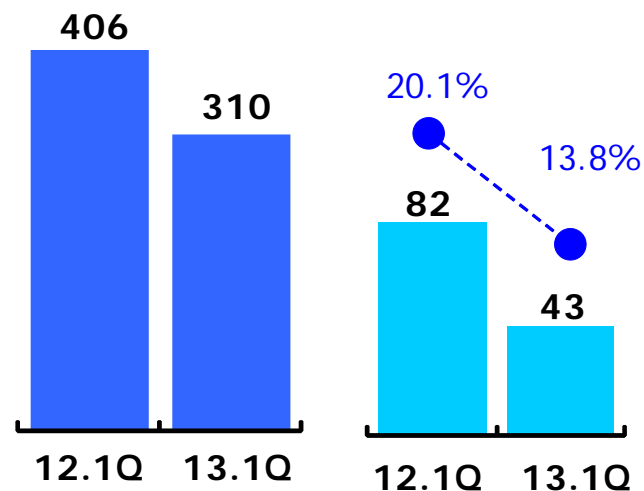


- 売上高：310億円（前年比▲24%）
- 営業利益：43億円（前年比▲48%）

TACフィルムはノートPC用の市況悪化、TV用部材多様化の影響を受けて販売減少。HDD用ガラス基板も厳しい状況が続く。  
計測機器分野は、M&A効果も含め事業収益に貢献。

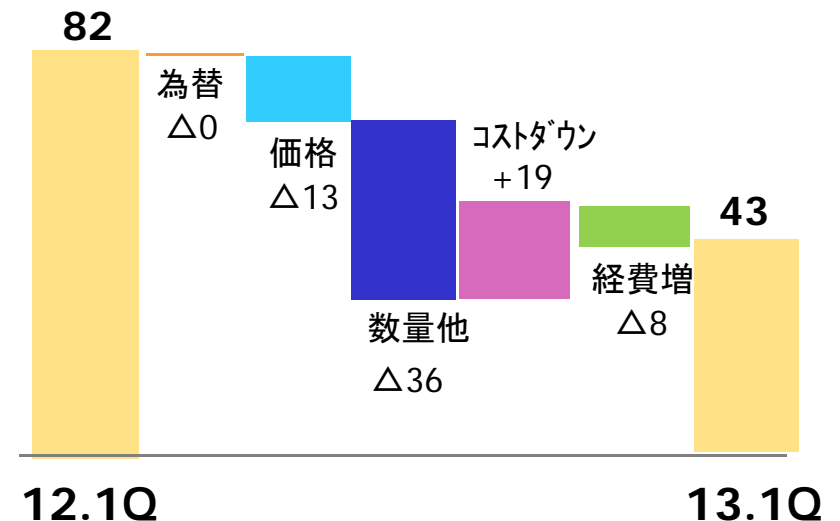
## 売上高/営業利益

左:売上高 右:営業利益 — 営業利益率 【億円】



## 営業利益 対前年増減分析

【億円】



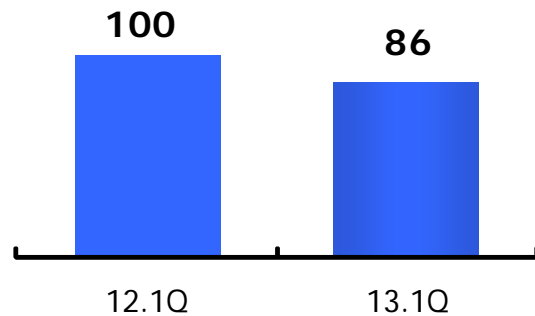
# 産業用材料・機器事業：主な製品の販売状況



KONICA MINOLTA

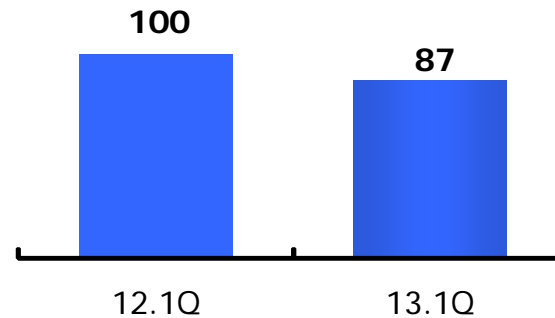
## TACフィルム

- ▶ TV部材の多様化、ノートPC市況悪化に伴い、受注減。



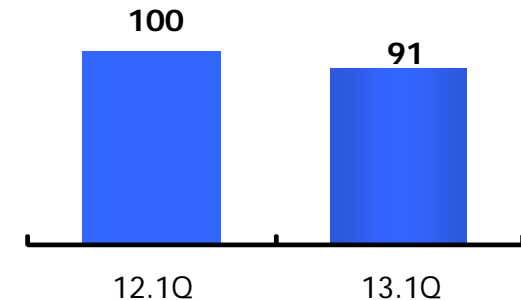
## 一眼カメラ用交換レンズ

- ▶ 在庫調整の影響受け、減少。但し、想定線での進捗。



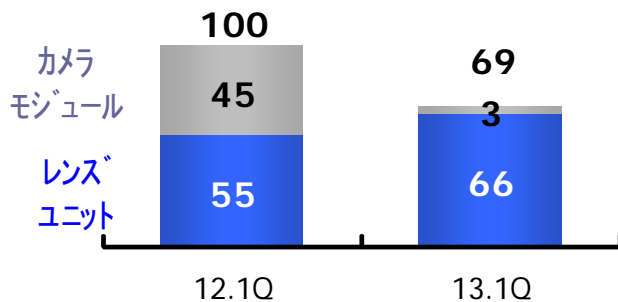
## 計測機器

- ▶ 販売台数は減少も、M&A効果含め、高セグメントへシフト。



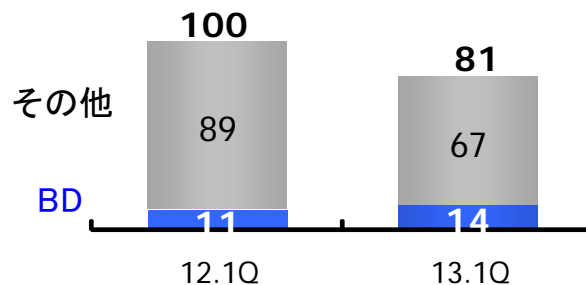
## カメラ付携帯電話用光学ユニット

- ▶ スマートフォン向けレンズユニットが好調に推移。



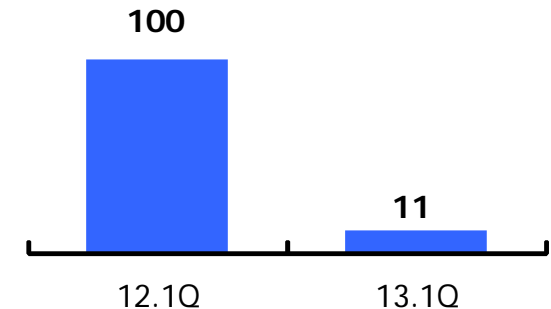
## 光ピックアップレンズ

- ▶ AV系、IT系ともDVDは減少もBDの販売増が収益に貢献。



## HDD用ガラス基板

- ▶ 市況悪化の影響を受け、受注が大幅減。



Giving Shape to Ideas

※12年度1Q販売数量を100とした場合の指数

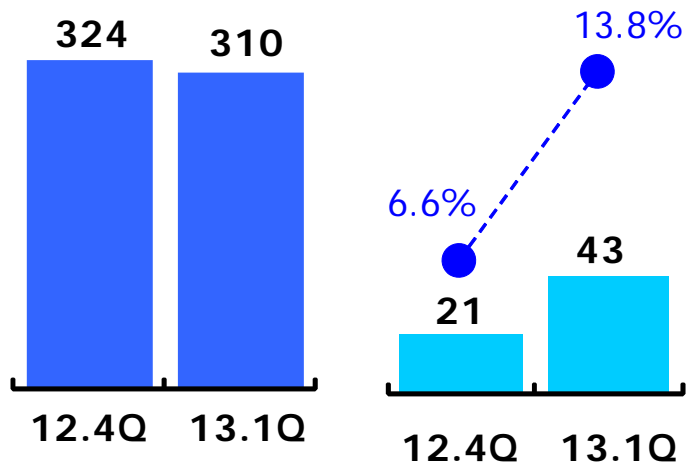
# <補足> 産業用材料・機器事業：直前期比較



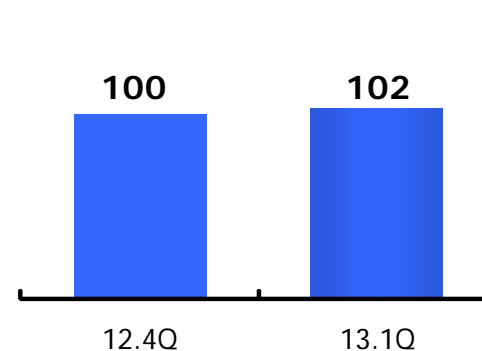
直前期(12年度4Q)との比較では、主要製品の販売モメンタムは改善。収益改善の効果もあり、売上微減収の中で営業増益。

## 売上高/営業利益

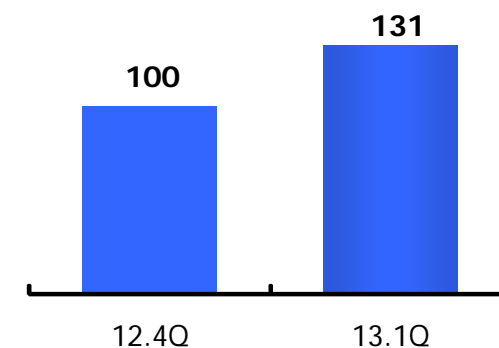
左:売上高 右:営業利益 ー営業利益率 【億円】



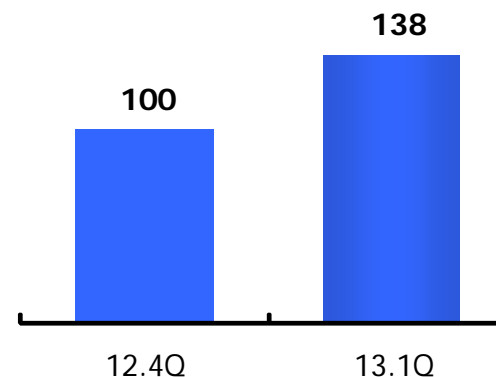
## TACフィルム



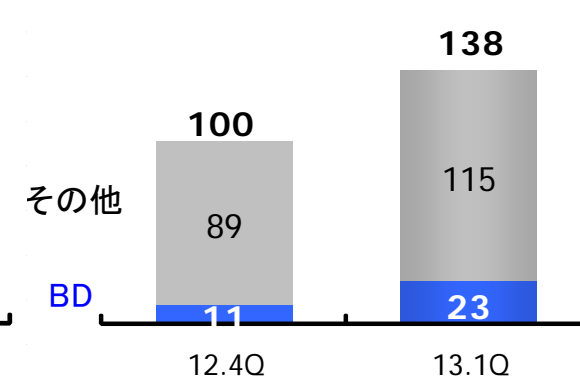
## 一眼カメラ用交換レンズ



## 計測機器



## 光ピックアップレンズ



# ヘルスケア事業総括

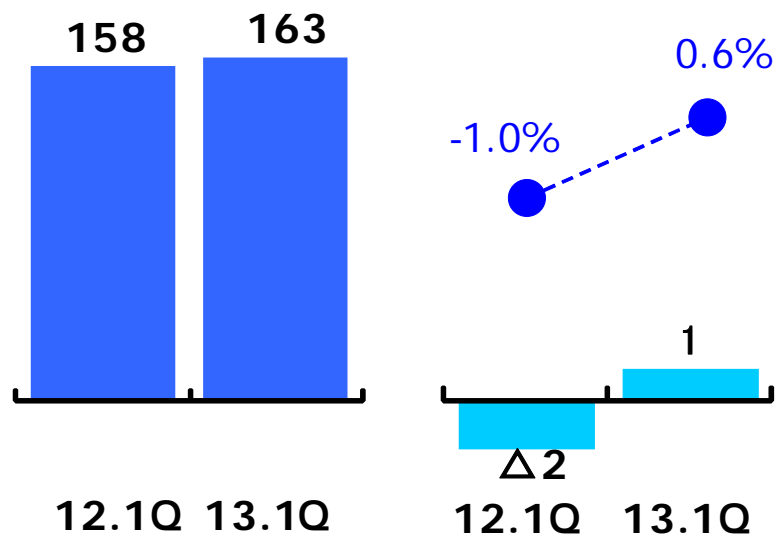


- **売上高**: 163億円 (前年比+3%)  
DR/CR販売が国内外で好調、フィルム製品の販売減を補う。
- **営業利益**: 1億円 (前年比2億円増)  
DR/CR販売増による粗利増やコストダウンにより黒字転換。

## 売上高/営業利益

【億円】

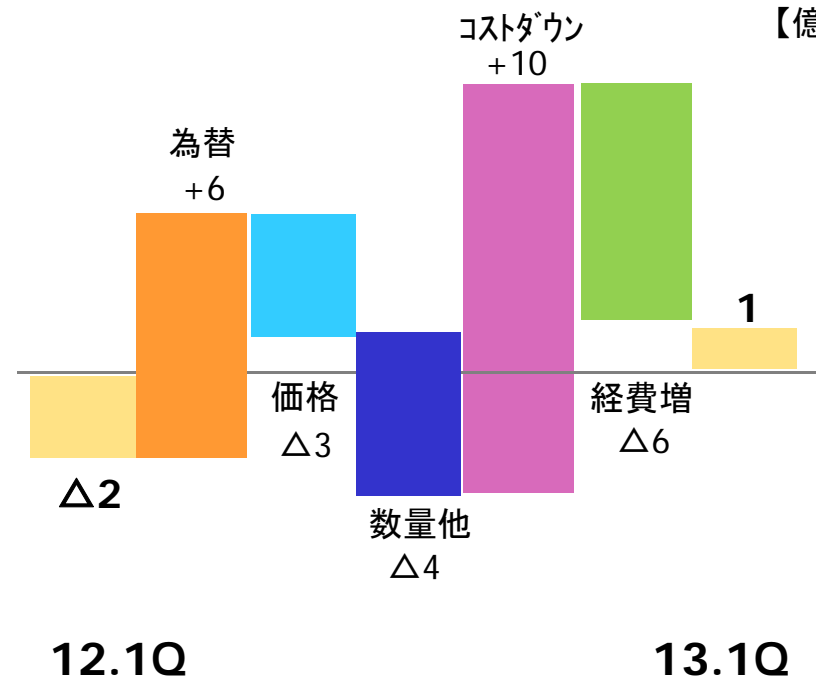
左:売上高 右:営業利益 -営業利益率



Giving Shape to Ideas

## 営業利益 対前年増減分析

【億円】

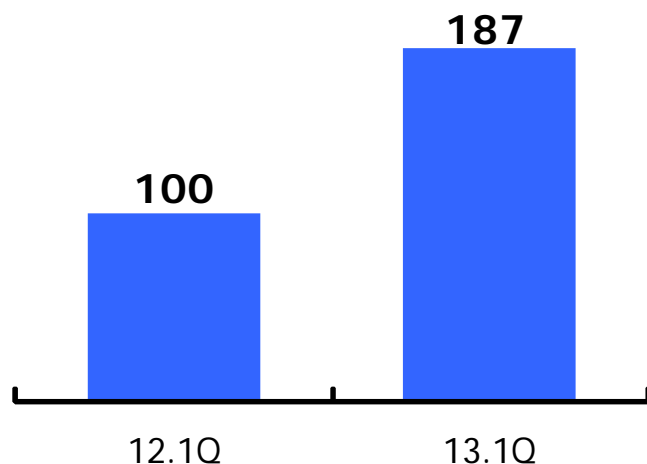


# ヘルスケア事業 : 主な製品の販売状況

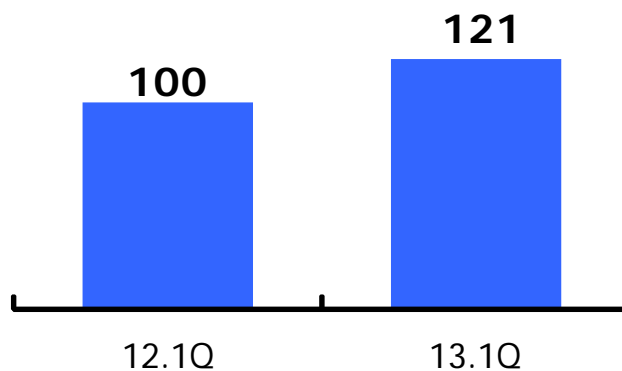


DR/CRの販売が好調を持続。北米では大型案件を獲得。  
販売提携先とのB2Bビジネスも立ち上がり、海外での販売拡大を加速。  
※6月にはGEヘルスケア社とグローバル販売契約を締結。  
DRYフィルムは、新興国での販売を積極展開。

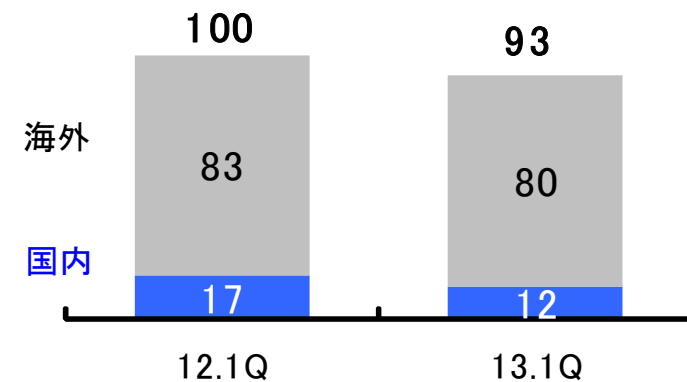
### Aero DR 販売台数



### CR戦略機 販売台数



### DRYフィルム 販売数量



先行き不透明な経営環境は認識しつつ、順調な業績進捗を踏まえて、期初予想(5月10日公表)を据え置く。

- 売上高： 9,000億円 (前年比+11%)
- 営業利益： 550億円 (前年比+35%)
- 当期純利益： 260億円 (前年比+72%)
- 剰余金配当： 年間：17.5円/1株 (連結配当性向：36%)  
[中間、期末：各7.5円/1株、記念配当：2.5円/1株]
- 為替前提： 1ドル=93円、1ユーロ=123円



## 2Q以降のアクション

- ▶ 情報機器事業では、①カラー機、高セグメント機の販売注力、②コストダウン取組み継続、③サービス事業強化による業容転換加速。
- ▶ 産業用材料・機器事業では、①TACフィルムは薄膜製品での販売数量確保、②計測機器は買収したIS社とのシナジー活かし、更なる顧客獲得、③不振事業の収益改善。
- ▶ ヘルスケア事業では、好調なDR/CR製品の一層の販売拡大。

## 考慮すべきリスク

- ▶ 欧州問題の長期化、新興国経済の成長鈍化に伴う市況悪化。
- ▶ 円安を背景にした価格変動の激化、急激な為替のリバウンド。



KONICA MINOLTA

## ■ 補足情報

# 2013年度1Q 全社業績要約



	13年度 1Q	12年度 1Q	[億円] YoY
売上高	2,185	1,894	15%
売上総利益	1,023	863	19%
(売上総利益率)	46.8%	45.6%	
営業利益	78	63	23%
(営業利益率)	3.6%	3.3%	
のれん代償却額	29	23	24%
のれん代償却前営業利益	107	86	24%
(のれん代償却前営業利益率)	4.9%	4.6%	
経常利益	71	48	47%
税引前当期純利益	60	40	52%
四半期純利益	98	2	大幅増益
(四半期純利益率)	4.5%	0.1%	
EPS(円)	18.43	0.29	
設備投資額	115	78	
減価償却費	116	107	
研究開発費	173	176	
FCF(営業CF-投資CF)	34	△ 163	
<参考>営業CF-設備投資CF	55	△ 97	
為替レート [円] USD	98.76	80.20	18.56
Euro	128.95	102.91	26.04

# 2013年度業績予想 全社ハイライト



KONICA MINOLTA

	13年度 予想	12年度 実績	[億円] YoY
売上高	9,000	8,131	11%
営業利益	550	407	35%
(営業利益率)	6.1%	5.0%	
経常利益	530	389	36%
当期純利益	260	151	72%
(当期純利益率)	2.9%	1.9%	
EPS(円)	49.03	28.52	
設備投資額	470	384	
減価償却費	500	460	
研究開発費	760	715	
FCF(営業CF-投資CF)	25	30	
<参考> 営業CF-設備投資CF	325	274	
為替レート [円] USD	93.00	83.10	
Euro	123.00	107.14	

1円変動時の為替感応度(年間)

売上高	営業利益
30億円	4億円
14億円	7億円

# 2013年度業績予想 セグメント別ハイライト



KONICA MINOLTA

[億円]

売上高	13年度 予想	12年度 実績	YoY
情報機器	6,650	5,816	14%
産業用材料・機器	1,390	1,468	-5%
ヘルスケア	780	728	7%
その他	180	119	-
グループ計	9,000	8,131	11%

営業利益 (右側: 営業利益率)	13年度 予想		12年度 実績		YoY
情報機器	550	8.3%	317	5.4%	74%
産業用材料・機器	190	13.7%	237	16.1%	-20%
ヘルスケア	60	7.7%	33	4.6%	79%
コーポレート・消去	△ 250	-	△ 180	-	-
グループ計	550	6.1%	407	5.0%	35%

# 情報機器事業 販売状況



KONICA MINOLTA

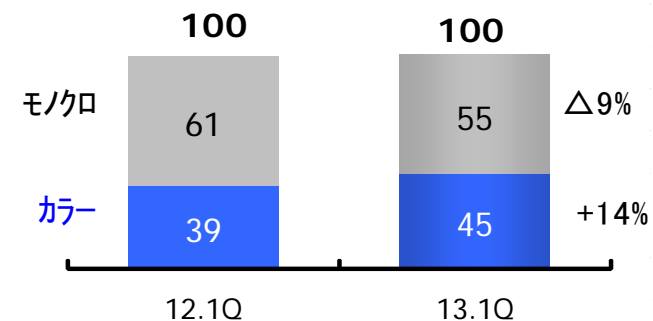
※四半期末の販売台数推移および増減は28P参照

## オフィスA3MFP(数量ベース)

地域別販売台数成長率(前年同期比)

	日本	米国	欧州	他地域	全体
カラー	+16%	+15%	+22%	△1%	+14%
モノクロ	△26%	△28%	△15%	0%	△9%
計	△2%	△9%	+7%	0%	0%

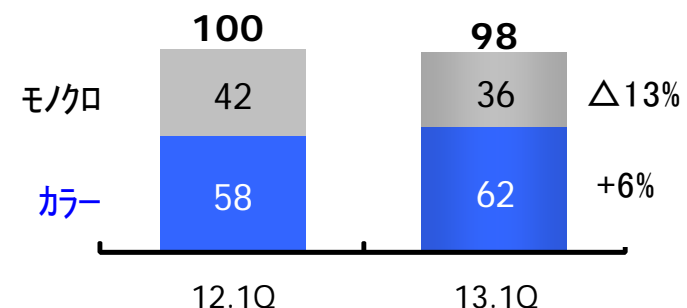
12.1Qを100とした場合の指数



## プロダクションプリント機(数量ベース)

地域別販売台数成長率(前年同期比)

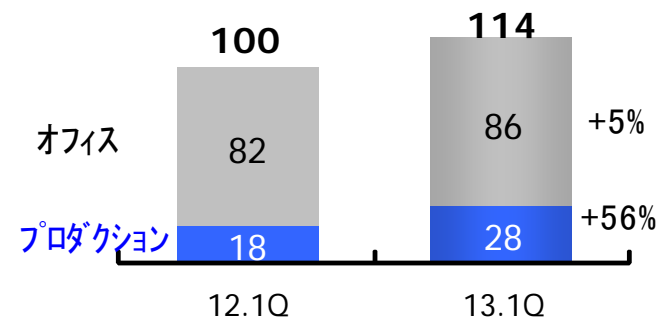
	日本	米国	欧州	他地域	全体
カラー	+102%	+12%	+1%	△2%	+6%
モノクロ	+62%	△17%	△10%	△14%	△13%
計	+89%	△5%	△2%	△7%	△2%



## ノンハード売上(現地通貨ベース)

地域別ノンハード売上成長率(前年同期比、現地通貨ベース)

	日本	米国	欧州	他地域	全体
オフィス	△1%	+4%	+13%	+23%	+5%
PP	+45%	+7%	+143%	+100%	+56%
計	+7%	+5%	+32%	+37%	+14%



# 営業利益増減分析

四半期 前年同期比較  
(12年度1Q vs. 13年度1Q)

	情報機器	産業用 材料・機器	ヘルスケア	コーポレート他	合計 [億円]
<b>[要因]</b>					
為替影響	37	△ 0	6	4	46
価格変動	△ 12	△ 13	△ 3	0	△ 29
数量増減他	56	△ 36	△ 4	△ 12	4
コストダウン	24	19	10	0	53
経費増減	△ 39	△ 8	△ 6	△ 7	△ 60
<b>[営業利益]</b>					
増減額(YoY)	66	△ 39	2	△ 15	15

# 販売管理費・営業外損益・特別損益



KONICA MINOLTA

	13年度 1Q	12年度 1Q	[億円] YoY
<b>販売管理費</b>			
販売変動費	116	109	8
研究開発費	173	176	△ 4
人件費	407	309	98
その他	249	206	44
<b>販売管理費 計</b>	<b>945</b>	<b>799</b>	<b>146</b>
	* 為替影響額: +86億円(実質増減 +60億円)		
<b>営業外収支</b>			
金融収支	△ 1	△ 1	0
為替差損益	△ 4	△ 10	6
その他	△ 3	△ 5	1
<b>営業外収支 計</b>	<b>△ 8</b>	<b>△ 16</b>	<b>8</b>
<b>特別損益</b>			
固定資産売却損益	△ 3	△ 7	4
投資有価証券評価・売却損益	0	△ 1	1
事業構造改善費用	△ 6	-	△ 6
その他	△ 1	△ 0	△ 1
<b>特別損益 計</b>	<b>△ 10</b>	<b>△ 8</b>	<b>△ 2</b>



# キャッシュ・フロー



KONICA MINOLTA

[億円]

YoY

	13年度 1Q	12年度 1Q	
税金等調整前四半期純利益	60	40	21
減価償却費	116	107	9
法人税等の支払額	△ 56	△ 42	△ 14
運転資本増減他	28	△ 114	142
<b>I. 営業活動によるキャッシュフロー</b>	<b>149</b>	<b>△ 9</b>	<b>158</b>
<b>II. 投資活動によるキャッシュフロー</b>	<b>△ 115</b>	<b>△ 154</b>	<b>39</b>
<b>I.+ II. FCF</b>	<b>34</b>	<b>△ 163</b>	<b>197</b>
有利子負債の増減	9	37	△ 28
配当金の支払額	△ 38	△ 38	△ 0
その他	△ 5	△ 3	△ 2
<b>III. 財務活動によるキャッシュフロー</b>	<b>△ 34</b>	<b>△ 5</b>	<b>△ 29</b>

# 貸借対照表



KONICA MINOLTA

[億円]

資産の部	13年6月	13年3月	増減
手元資金	2,156	2,139	17
売上債権	1,889	1,940	△ 51
棚卸資産	1,128	1,125	3
その他	618	592	27
<b>流動資産 計</b>	<b>5,791</b>	<b>5,796</b>	<b>△ 5</b>
有形固定資産	1,854	1,799	55
無形固定資産	1,102	1,109	△ 7
投資その他	780	701	79
<b>固定資産 計</b>	<b>3,737</b>	<b>3,610</b>	<b>127</b>
<b>資産 合計</b>	<b>9,527</b>	<b>9,406</b>	<b>122</b>

## 負債および純資産の部

仕入債務	820	854	△ 34
有利子負債	2,279	2,249	30
その他負債	1,607	1,638	△ 31
<b>負債 合計</b>	<b>4,706</b>	<b>4,741</b>	<b>△ 35</b>
自己資本 (株主資本+その他包括利益累計額計)	4,805	4,649	156
その他	16	15	1
<b>純資産 合計</b>	<b>4,821</b>	<b>4,664</b>	<b>157</b>
<b>負債・純資産 合計</b>	<b>9,527</b>	<b>9,406</b>	<b>122</b>

[円]

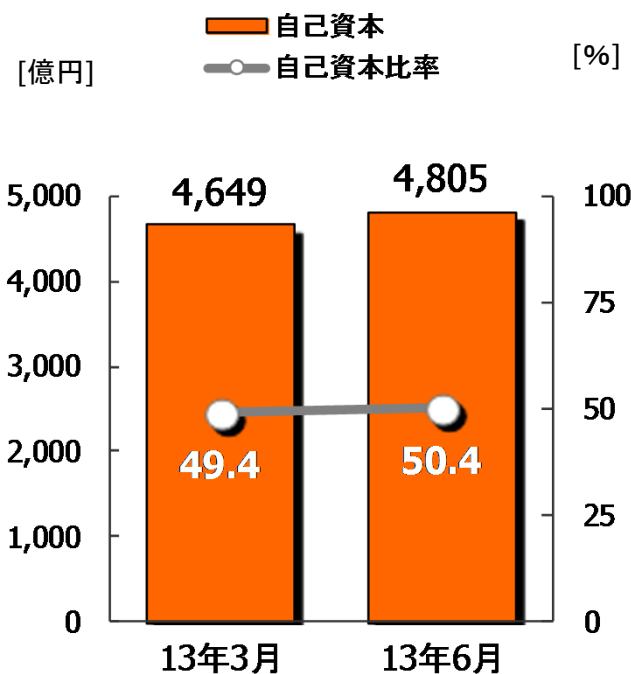
Giving Shape to Ideas

	13年6月	13年3月	増減
US\$	98.59	94.05	4.54
Euro	128.53	120.73	7.80

# 連結貸借対照表 主要指標

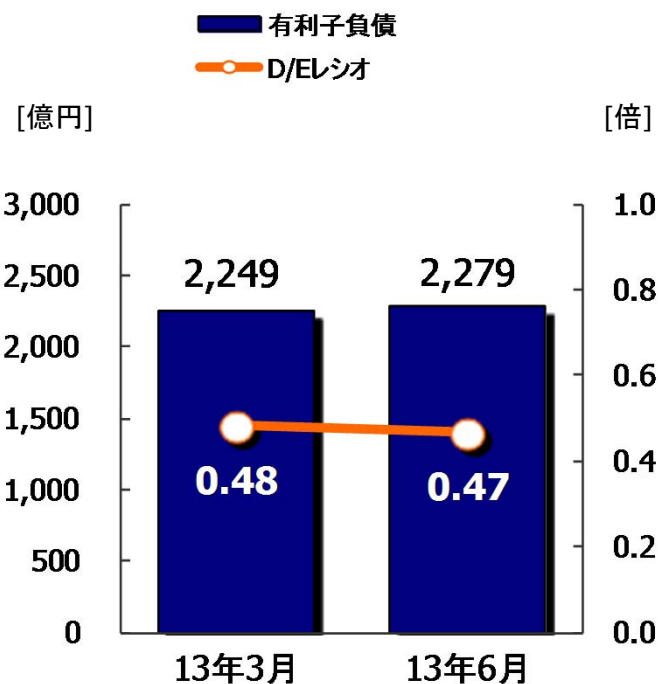


## ● 自己資本比率



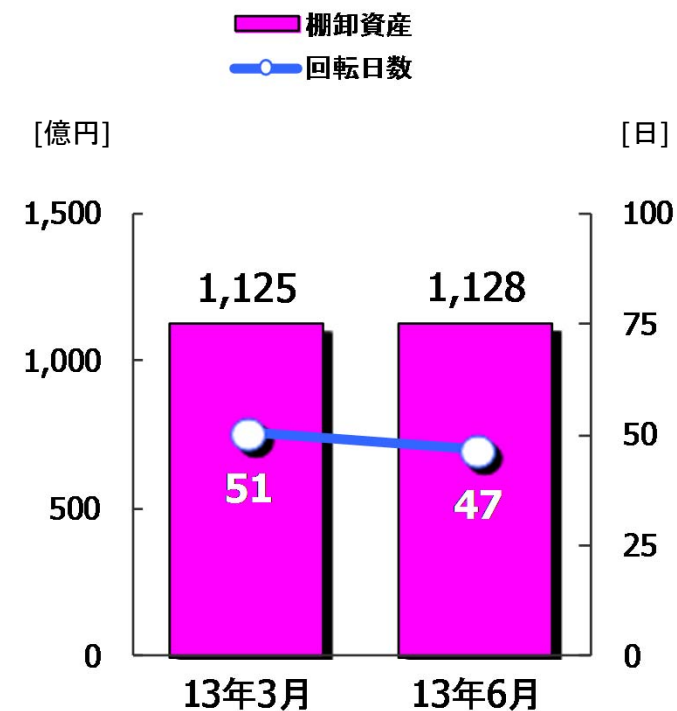
自己資本比率:  
 $\text{自己資本} \div \text{期末総資産}$   
 ※自己資本=期末株主資本+その他包括利益累計額合計

## ● 有利子負債残高・D/Eレシオ



D/Eレシオ:  
 $\text{期末有利子負債} \div \text{自己資本}$   
 ※自己資本=期末株主資本+その他包括利益累計額合計

## ● 棚卸資産・棚卸資産回転日数



棚卸資産回転日数:  
 $\text{期末棚卸資産} \div (\text{売上} / \text{日})$

# 情報機器事業 主要製品販売状況

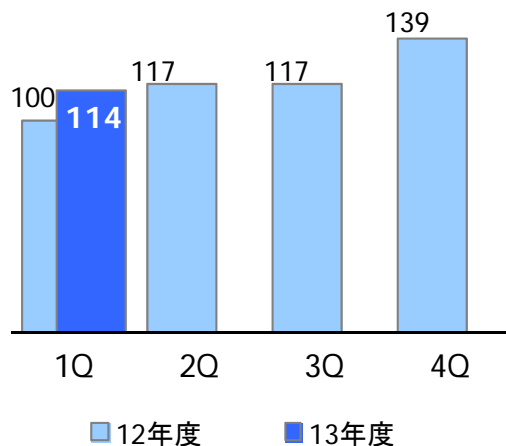


KONICA MINOLTA

前方棒グラフ: 2013年度実績 後方棒グラフ: 2012年度実績

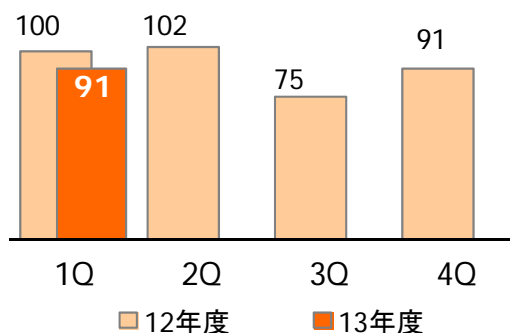
## A3オフィスカラーMFP 販売台数

YoY: +14%



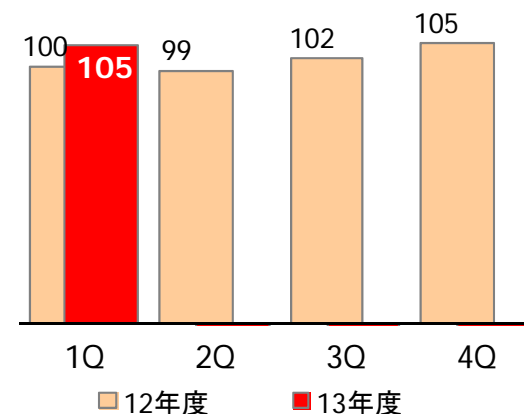
## A3オフィスモノクロMFP販売台数

YoY: Δ9%



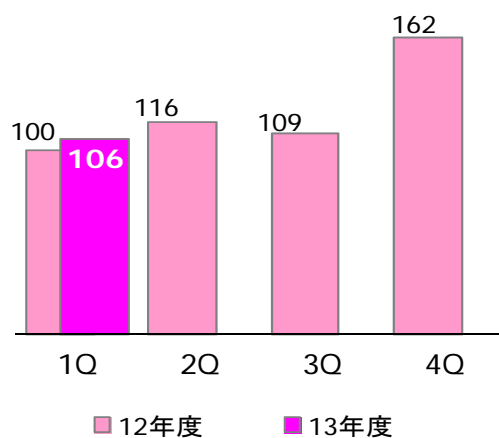
## オフィスノンハード売上 為替影響除く

YoY: +5%



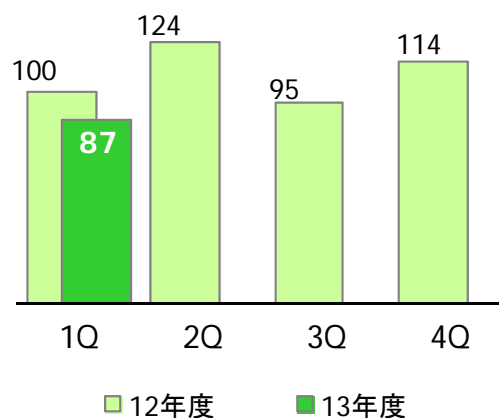
## カラープロダクションプリント 販売台数

YoY: +6%



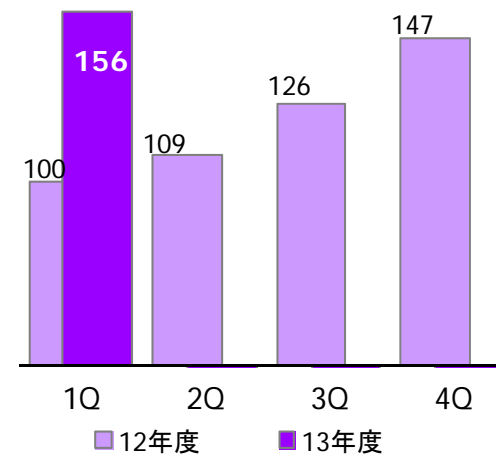
## モノクロプロダクションプリント販売台数

YoY: Δ13%



## プロダクションプリント ノンハード売上 為替影響除く

YoY: +56%



# 産業用材料・機器事業 主要製品販売状況

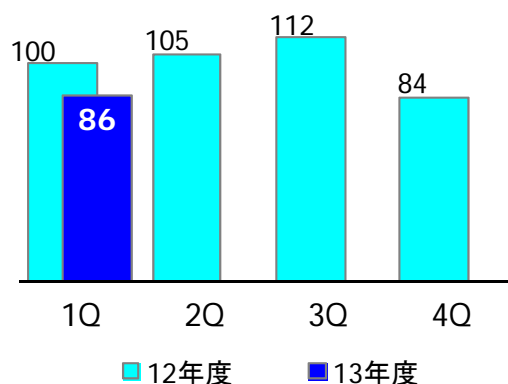


KONICA MINOLTA

前方棒グラフ:2013年度実績 後方棒グラフ:2012年度実績

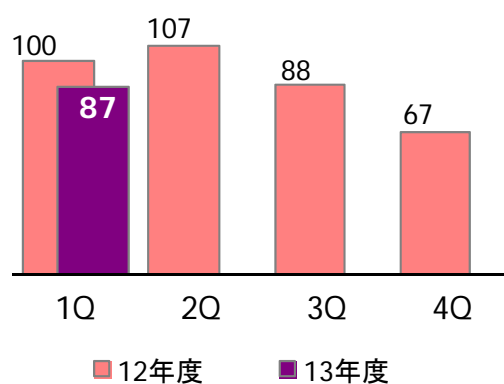
## TACフィルム販売数量

YoY:  $\Delta 14\%$



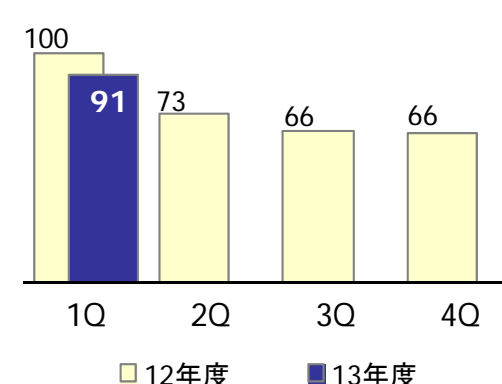
## 一眼カメラ用交換レンズ販売数量

YoY:  $\Delta 13\%$



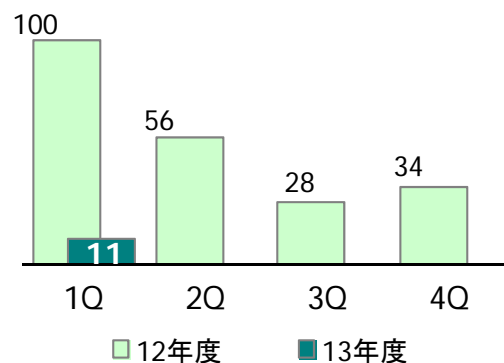
## 計測機販売数量

YoY:  $\Delta 9\%$



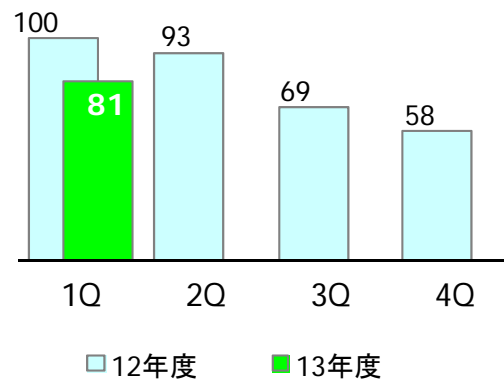
## HDD用ガラス基板販売数量

YoY:  $\Delta 89\%$



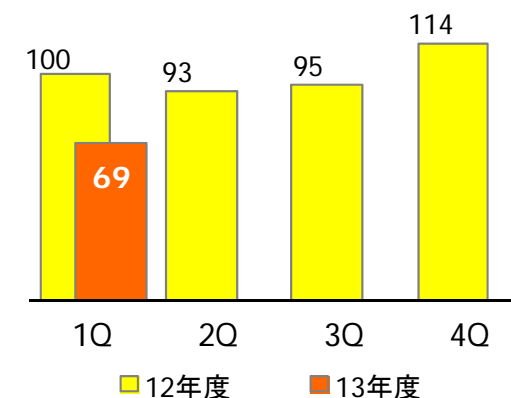
## ピックアップレンズ販売数量

YoY:  $\Delta 19\%$



## カメラ付携帯用レンズ販売数量

YoY:  $\Delta 31\%$



**Giving Shape to Ideas**



**KONICA MINOLTA**